令和８年度 第１回米原市健康づくり推進協議会　要点録

日時：令和８年８月６日（木）16:30～18:00

会場：米原市役所本庁舎　３Ｃ会議室

【出席者】

（一社）湖北医師会	中村 泰之
滋賀大学教育学部	久保 加織
（一社）湖北歯科医師会	山根　史考
米原市商工会	北川 敬子
（福）市社会福祉協議会	伏谷 勇恭
市健康推進員会	村居　裕美
市老人クラブ連合会	北村　喜代嗣
保育園・認定こども園代表	三條　美和
JAレーク伊吹農協職員	中野　聡
（一社）近江スポーツクラブ	里本 靖之
湖北健康福祉事務所（長浜保健所）	川上　寿一
給食センター	岸 陽子
公募	友松　かおり

【欠席者】

校長会代表	億田　明彦
市スポーツ推進委員協議会代表	中野 民子
公募	三輪 恵美

【事務局】

健康福祉部	宮野部長
健康づくり課	高橋課長、細溝課長補佐、真壁課長補佐、中澤保健師

【傍聴者】

２名

【要点録】

1. 開会・あいさつ（健康福祉部長）

・出席状況：委員16人中13人出席（会議成立）

2. 協議事項

(1) 健康まいばらんす計画について（米原市の現状報告）

事務局より、市の人口動態と計画の概要の説明

(2) 令和７年度の取組について

４つの柱に沿った事業報告が行われ、関連して委員より以下の意見が出された。

・親子料理教室で、家では野菜を食べない子が自分で作った料理を完食し、親が喜んでいた。体験の重要性を実感した。

・５月のグリーンピースのさやむき体験や12月の白ネギの収穫体験を通じ、苦手な食材も「自分で触れる・収穫する」ことで給食で喜んで食べるようになるという成功体験が得られた。

・国スポを機にスポーツへの関心は高まっている。民生委員等の相談件数の多さからも、地域で互いに顔の見える距離感で支え合う文化の維持が大切だと感じている。

・園でのフッ化物洗口が始まり、子どもの歯への意識が高まっている。これが小学校以降も継続され、習慣化していくことが重要である。

・フッ化物洗口の効果が出るのは先のことだが、継続していくことが重要。

(3) 子どもの健康の現状とその背景について

データに基づき、現代の子どもを取り巻くリスクと背景について委員間で討議された。委員からの主な意見は、以下とおり。

・若年女性の痩せが深刻で、低出生体重児の増加に繋がる。時短・安価・健康を両立できる「食の仕掛け」が必要。

・75歳以上の高齢者はしっかり食べていても体重が落ちてしまう（フレイル等のリスク）一方で、子ども世代は過剰摂取や栄養の偏りによる肥満・高血糖が課題となっており、対照的な難しさがある。

・共働きが「健康に悪い」という文脈で語られる苦しさがある。社会全体でサポートする風土が必要。

・塾や習い事で子どもが多忙すぎる。夜遅い食事やコンビニ利用が常態化している。
・子どもの机の上にグミなどの菓子類が散乱しているような現状があり、安価で便利なコンビニや外食が普及した社会で、栄養バランスを保つことの困難さを痛感している。
・姿勢の悪さや噛まない食事が歯並びに悪影響。ネグレクトが疑われる重症虫歯への対応も課題。
・HbA1cの高さに驚いた。人口増エリア（米原・近江）など地域特性に合わせた連携が必要。
・多忙な子どもでも参加しやすい週末の収穫体験などをJAとしても提供していきたい。
・スマホ依存による外遊びの減少を危惧。異年齢集団での遊びが失われ、社会性の発達も心配。
・子ども達の健康や体つくりには遊びが不可欠。市役所の市民スペースのような中高生や小学生が無料で集まれる「屋内の居場所」が各校区にあるとよい。
・体力の二極化や睡眠不足、精神的ストレスが課題。発達段階に応じた継続的な教育と、子ども自身が「自分の健康を守る」意識を育むことが重要。
・子どもも親も情報源がSNSに偏り、真偽の判断が難しい。家庭や学校だけで解決しようとせず、この協議会のように多分野の関係者がデータを共有し、多角的に支援し続けることが今最も必要。

3. その他

・地域共生社会フェスタ：11月15日に開催、協議会としてブース出展予定。
・啓発物品貸出しのお知らせ
・ゲートキーパー養成講座：８月28日に開催予定。